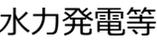


エネルギー源の比較と選択（電力）

名前

	エネルギー源	メリット	デメリット	政府	あなたの選択	
再生可能エネルギー	太陽光発電 	<ul style="list-style-type: none"> 安全 国産エネルギー 温室効果ガス(二酸化炭素)を出さない 燃料代がいらぬ 故障しにくいメンテナンスが簡単 一般住宅にも設置可能で、多くの場所に設置ができる 	<ul style="list-style-type: none"> 天気次第で発電量が変動する 変動を受け入れるために、系統(電力システム)に技術力が必要となる まだ設置費用が割高である メガソーラー設置の際には、周辺の自然へ悪影響を与える場合がある。 	36~38%		
	風力発電 	<ul style="list-style-type: none"> 安全 国産エネルギー 温室効果ガス(二酸化炭素)を出さない 燃料代がいらぬ 海岸線の長い日本では、適地が多く、海上に設置することもできる(洋上風力発電) 大量に発電できるために、コストが低くなりやすい 	<ul style="list-style-type: none"> 風が吹かないと発電できない 変動を受け入れるために、系統(電力システム)に技術力が必要となる まだ設置費用が割高である 風車の羽に鳥が衝突するなど周辺の自然へ悪影響を与える場合がある 			
	水力発電等 	—	—			
化石燃料	天然ガス 	<ul style="list-style-type: none"> 化石燃料の中では、二酸化炭素の排出が少ない(石炭の約半分) 有害な大気汚染物質をほとんど排出しない 産出国が多く、幅広く輸入できるため、入手困難になりにくい 	<ul style="list-style-type: none"> 石炭にくらべ、燃料コストが高い 貯蔵が難しく、備蓄量が他の化石燃料に比べて少ない(2週間分) ほぼ全量を輸入に頼り、国産エネルギーではない 	20%		
	石炭 	<ul style="list-style-type: none"> 燃料コストが安い 産出国が多いため、幅広く輸入できる 資源豊富でしばらく枯渇しない 	<ul style="list-style-type: none"> 化石燃料のなかでは、最も多くの二酸化炭素を多く排出する 健康に害を及ぼす大気汚染物質(SOx, NOxなど)を排出する ほぼ全量を輸入に頼り、国産エネルギーではない 			
	石油 	<ul style="list-style-type: none"> 輸送が容易で比較的多くの備蓄が可能(国内で90日分) 	<ul style="list-style-type: none"> 石炭・ガスに比べ燃料コストが高い 産油国に偏りがあり、政治情勢が悪化すると、入手が困難になる ほぼ全量を輸入に頼り、国産エネルギーではない 			2%
原子力 	<ul style="list-style-type: none"> 温室効果ガス(二酸化炭素)をほとんど排出しない ごく少量の燃料ウランで、大量に発電できる 福島第一原発事故(2011年)以前は、発電コストが安いとされていた 	<ul style="list-style-type: none"> 放射性廃棄物の処理が未解決 ひとたび事故が起きると、長期にわたる甚大な被害と健康リスク 	20~22%			
2030年 温室効果ガス 削減目標 (%)				4 6 %		